# 青森県立高等学校教育改革推進計画に関する
# 地区意見交換会（西北）における主な意見

平成２９年２月１３日

# 目　次


１　西北地区の中学校卒業者数の推移と全日制課程の学級数の見込み..... 1

２　全日制課程の学校規模・配置に関する意見..... 2

（１）重点校、拠点校、地域校について..... 2

（２）委員の意見に基づく学校配置シミュレーション..... 3

ア　平成２９年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合..... 3

イ　五所川原農林高校と五所川原工業高校を統合して新設校を配置する場合
..... 5

ウ　金木高校、板柳高校、鶴田高校を統合する場合..... 7

エ　第１期実施計画では金木高校、鰺ヶ沢高校、板柳高校、鶴田高校を１学級規模で配置し、第２期実施計画で統合する場合..... 9

オ　第１期実施計画では普通科の連携校４校を統合し、更に第２期実施計画で五所川原工業高校を統合する場合..... 11

カ　金木高校と鰺ヶ沢高校を１学級規模で配置し、連携校４校を統合し新設校を配置する場合..... 13

（３）その他の意見..... 15

３　定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見..... 16

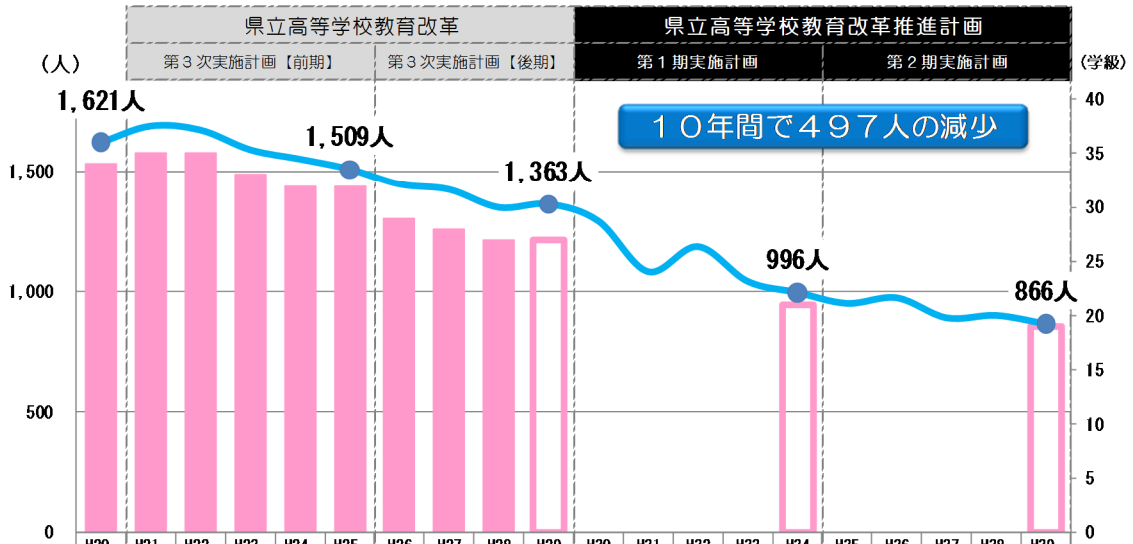
【参考１】委員名簿（西北地区）..... 17

【参考２】オブザーバー名簿（西北地区）..... 18

【参考３】地区意見交換会の開催状況（西北地区）..... 18

## １　西北地区の中学校卒業者数の推移と全日制課程の学級数の見込み

※中学校卒業（予定）者数は、各年３月。
　平成２９年度以降は、平成２８年５月１日現在の児童生徒数をもとに県教育庁高等学校教育改革推進室において推計。
※平成２９年度の学級数は、県立高等学校教育改革第３次実施計画【後期】によるもの。
　平成３０年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流出入等の状況を勘案し、算出。




| （平成28年4月1日現在の学年） | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26（高3） | H27（高2） | H28（高1） | H29（中3） | H30（中2） | H31（中1） | H32（小6） | H33（小5） | H34（小4） | H35（小3） | H36（小2） | H37（小1） | H38 | H39 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中学校卒業（予定）者数 | 1,621 | 1,689 | 1,672 | 1,590 | 1,551 | 1,509 | 1,446 | 1,424 | 1,349 | 1,363 | 1,292 | 1,082 | 1,186 | 1,042 | 996 | 951 | 974 | 891 | 901 | 866 |
| 学級数 | 34 | 35 | 35 | 33 | 32 | 32 | 29 | 28 | 27 | 27 | | | | | 21 | | | | | 19 |

| | H25までの増減（対H20） | H29までの増減（対H25） | H34までの増減（対H29） | H39までの増減（対H34） |
|---|---|---|---|---|
| 中学校卒業（予定）者数 | △112人 | △146人 | △367人 | △130人 |
| 学　級　数 | △2学級 | △5学級 | △6学級～△8学級 | △2学級～△4学級 |
| | | | △8学級～△10学級 | |

| | | | 第１期実施計画 | 第２期実施計画 |
|---|---|---|---|---|
| 試案における候補校 | | Ｈ２９ | Ｈ３４ | Ｈ３９ |
| 重点校 | 五所川原高校 | ５学級 | △６学級（対 H29） | △８学級（対 H29） |
| 拠点校 | 五所川原農林高校 | ４学級 | | |
| 地域校※ | 木造高校深浦校舎 | １学級 | | |
| | 中里高校 | １学級 | | |
| 重点校等の合計 | | １１学級 | | |
| 連携校 | 五所川原工業高校 | ４学級 | | |
| | 木造高校 | ４学級 | | |
| | 金木高校 | ２学級 | | |
| | 鰺ヶ沢高校 | ２学級 | | |
| | 板柳高校 | ２学級 | | |
| | 鶴田高校 | ２学級 | | |
| 連携校の合計 | | １６学級 | | |
| 西北地区全体の合計 | | ２７学級 | ２１学級 | １９学級 |

※基本方針に定める地域校の方向性に基づき、募集人員に対する入学者数の割合が２年間継続して２分の１未満となった場合には、当該高校の所在する市町村等と募集停止等に向けて協議します。

## ２　全日制課程の学校規模・配置に関する意見

### （１）重点校、拠点校、地域校について

#### ①　全般

○　重点校等の試案についてはおおむね良いと考えている。

○　重点校、拠点校の候補校は、西北地区の歴史を見ても異議はない。

○　重点校や拠点校だけでなく、子どもの学力に配慮した学校配置を検討してほしい。

○　重点校、拠点校の配置は、伝統ある学校を存続するという趣旨に聞こえる。

○　いずれ重点校、拠点校の学級数も減らさなければならないのではないか。重点校、拠点校の学級数を残すために、ほかの学校が影響を受けているように感じる。

#### ②　重点校

○　重点校については、５学級以上なければ大学進学に対応することが難しくなるため、規模を維持することに賛成である。

○　青森県立高等学校将来構想検討会議において、重点校の学校規模の標準は６学級以上としているが、五所川原高校を６学級規模にすると周囲の高校への影響が大きいことから、５学級規模でも柔軟に対応するよう西北地区部会でお願いしたものである。

○　全ての学校を配置したいという思いはあるが、五所川原高校を４学級規模、３学級規模にしてしまうと大学に進学したいという子どもたちの将来の夢を閉ざしてしまうことになる。

○　木造高校はこれまでの実績から重点校になっても良いと思っている。それが無理なのであれば、重点校的な学校として位置付けてほしい。

#### ③　拠点校

○　拠点校の候補校である五所川原農林高校は、例年志願する生徒が多い学校であり、その取組に期待している。

○　五所川原工業高校の在り方も地域にとっては大事である。五所川原工業高校も拠点校として存続してほしい。

#### ④　地域校

○　地域校について、科目の開設状況が厳しいということは分かるが、ＩＣＴを活用した取組により、学校として維持できるのではないか。

○　地域校という枠組みを作ってくれたことはありがたい。中里中学校から金木高校に進学する生徒が十数名いるが、その生徒たちが中里高校に入学するように対策を講じることは、地元自治体の仕事ではないかと考える。

○　中里高校がなくなると、市浦地域や小泊地域出身で、勉強やスポーツが得意ではない子どもはどこの高校に進学するのか。

○　鰺ヶ沢高校が統合となり、木造高校深浦校舎も募集停止となると、深浦町の子どもはどこに行けば良いのか。できるだけ深浦校舎を存続してほしい。

○　地域校について、最終的には関係市町村による組合立の学校とすることや通学支援をすることも考えなければならない。

○　通学手段を踏まえた上で、統合による２学級規模の地域校が必要である。

（２）委員の意見に基づく学校配置シミュレーション

ア　平成２９年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合

| | 第３次実施計画 | 青森県立高等学校教育改革推進計画 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 第１期実施計画 | | 第２期実施計画 | |
| | Ｈ２９ | | Ｈ３４ | | Ｈ３９ |
| 重点校 | 五所川原<br>５学級 | | 五所川原<br>５学級 | | 五所川原<br>５学級 |
| 拠点校 | 五所川原農林<br>４学級 | | 五所川原農林<br>４学級 | | 五所川原農林<br>４学級 |
| 連携校 | 五所川原工業<br>４学級 | △1学級<br>→ | 五所川原工業<br>３学級 | △1学級<br>→ | 五所川原工業<br>２学級 |
| | 木造<br>４学級 | △1学級<br>→ | 木造<br>３学級 | △1学級<br>→ | 木造<br>２学級 |
| | 金木<br>２学級 | △1学級<br>→ | 金木<br>１学級 | | 金木<br>１学級 |
| | 鰺ヶ沢<br>２学級 | △1学級<br>→ | 鰺ヶ沢<br>１学級 | | 鰺ヶ沢<br>１学級 |
| | 板柳<br>２学級 | △1学級<br>→ | 板柳<br>１学級 | | 板柳<br>１学級 |
| | 鶴田<br>２学級 | △1学級<br>→ | 鶴田<br>１学級 | | 鶴田<br>１学級 |
| 小計 | ２５学級 | △6学級<br>→ | １９学級 | △2学級<br>→ | １７学級 |
| 地域校 | 深浦校舎<br>１学級 | | 深浦校舎<br>１学級 | | 深浦校舎<br>１学級 |
| | 中里<br>１学級 | | 中里<br>１学級 | | 中里<br>１学級 |
| 合計 | ２７学級 | △6学級<br>→ | ２１学級 | △2学級<br>→ | １９学級 |

## ①　シミュレーションの基となった意見

○　生徒数が減少すると、学校運営が厳しくなると思うが、可能な限り現在の学校数を維持してほしい。

## ②　期待される効果等

○　子どもの学力向上や高校教育を受ける機会に配慮した学校配置を望む。

○　高校進学を希望する生徒に対して、高校の選択肢が多くあり、高校教育を受ける機会を確保することができる。

○　学力的に重点校や拠点校に進学できない生徒の選択肢が確保できる。

○　高校を核とした地域活性化のため、郡部にある連携校４校は１学級規模を維持する必要がある。

## ③　更に検討を要する課題等

○　学校規模による開設科目状況を見て、自分の子どもが高校に進学する際には大きな高校に入学させたいと感じた。

○　学校規模の大きい学校がないので、大学進学やスポーツを頑張りたいという希望により、他地区の高校に進学する生徒もいる。

○　普通科の連携校４校（金木高校、鰺ヶ沢高校、板柳高校、鶴田高校）は、現在、全て２学級規模だが、１学級規模でも残すのが現実的である。ただ、１学級規模になると部活動数や開設科目数が少なくなるため、高校としての魅力が薄れ、多くの中学生が私立高校を志望する可能性がある。

○　１学級規模の高校では、生徒が希望する教科・科目や部活動に制約が出てくる。満足な教育ができなければ、子どもにとって魅力のある学校になることは難しい。

○　連携校が１学級規模となることにより、高校教育としての質の確保・向上が図られるのか、あるいは部活動の運営等ができるのか。

○　１学級規模の高校で、大学進学、就職等の幅広い進路指導や科目の開設など、生徒のニーズに応える魅力ある教育活動ができるのか。

○　１学級規模になっても充実した教育を行えるよう、教員を増やせば良い。

○　全ての学校を配置した場合、学校の小規模化が更に進むことになる。西北地区は北五地域（五所川原市及び北津軽郡）と西つがる地域（つがる市及び西津軽郡）に分かれており、西つがる地域にも４学級規模の高校を配置してほしい。

○　五所川原工業高校が２学級になった場合、工業高校として成り立つのか心配である。

イ　五所川原農林高校と五所川原工業高校を統合して新設校を配置する場合

○　新設校は、農業科の拠点校として農業科を４学級規模とする。

| | 第３次実施計画 | 青森県立高等学校教育改革推進計画 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 第１期実施計画 | | 第２期実施計画 | |
| | Ｈ２９ | | Ｈ３４ | | Ｈ３９ |
| 重点校 | 五所川原<br>５学級 | | 五所川原<br>５学級 | | 五所川原<br>５学級 |
| 拠点校 | 五所川原農林<br>４学級 | | 新設校<br>農業科４学級<br>工業科〇学級<br>（４＋〇）学級 | | 新設校<br>農業科４学級<br>工業科〇学級<br>（４＋〇）学級 |
| 連携校 | 五所川原工業<br>４学級 | | | | |
| | 木造<br>４学級 | | 木造<br>〇学級 | | 木造<br>〇学級 |
| | 鰺ヶ沢<br>２学級 | △6学級<br>→ | 鰺ヶ沢<br>〇学級 | △2学級<br>→ | 鰺ヶ沢<br>〇学級 |
| | 金木<br>２学級 | | 金木<br>〇学級 | | 金木<br>〇学級 |
| | 板柳<br>２学級 | | 板柳<br>〇学級 | | 板柳<br>〇学級 |
| | 鶴田<br>２学級 | | 鶴田<br>〇学級 | | 鶴田<br>〇学級 |
| 小計 | ２５学級 | △6学級<br>→ | １９学級 | △2学級<br>→ | １７学級 |
| 地域校 | 深浦校舎<br>１学級 | | 深浦校舎<br>１学級 | | 深浦校舎<br>１学級 |
| | 中里<br>１学級 | | 中里<br>１学級 | | 中里<br>１学級 |
| 合計 | ２７学級 | △6学級<br>→ | ２１学級 | △2学級<br>→ | １９学級 |

## ①　シミュレーションの基となった意見

○　専門的学習を総合的に提供し、質の高い専門学科の学校とするため、農業科と工業科の高校を統合してはどうか。

## ②　期待される効果等

○　五所川原農林高校と五所川原工業高校の統合は、職業教育の充実に向けた意欲的な取組であり評価できる。

○　拠点校の学校規模の標準に異存はないが、平成２９年度の五所川原農林高校の志願状況を見ると定員を下回っている学科も見られ、逆に五所川原工業高校は定員を大幅に上回っていることから、将来的には両校の統合による農工に特化した専門高校の新設も検討すべきである。

○　統合校において、４学級以上の学級数を確保できる。

## ③　更に検討を要する課題等

○　五所川原工業高校は４学級規模で充実した教育活動をしているため、統合は考えられない。

○　五所川原工業高校は、現在でも４学級規模を確保できていることから、工業科の単独校として残しておくべきではないか。

○　五所川原農林高校と五所川原工業高校の統合案には反対である。なぜなら、この統合案ではまだ学校規模が小さいからである。もっと多くの学校を統合し、スケールメリットを生かせる産業高校があれば良い。

○　木造高校以外の連携校が１学級規模となり、高校教育の質の確保や向上等が図られるのか。

○　両校を統合して新設校を設ける場合、現在の状況を考えると異なる分野の専門高校を統合することによる学校運営上の課題が多すぎる。

○　両校とも、教育活動において学校の施設設備、学習環境等が重要である。統合した場合、広大な校舎、施設設備、実習の敷地等が必要となり、すぐに統合することは難しいのではないか。

## ④　その他

○　専門高校を産業高校という形で一括りにして、農業、工業、商業、福祉、医療等の分野において、これから必要となる人財を輩出するため、産業高校を新設することは考えられないか。

○　この統合では五所川原農林高校と五所川原工業高校のキャンパス制も考えられるが、その場合、地理的に離れていることで、教師、生徒の移動が困難なため、諸活動が円滑にできない。

ウ　金木高校、板柳高校、鶴田高校を統合する場合

○　新設校は、「学校規模の標準」を踏まえ、４学級規模と仮定する。

<table>
<tr><th rowspan="3"></th><th rowspan="2">第３次実施計画</th><th colspan="4">青森県立高等学校教育改革推進計画</th></tr>
<tr><th colspan="2">第１期実施計画</th><th colspan="2">第２期実施計画</th></tr>
<tr><th>Ｈ２９</th><th colspan="2">Ｈ３４</th><th colspan="2">Ｈ３９</th></tr>
<tr><td rowspan="3">重点校<br>拠点校<br>連携校</td><td>五所川原<br>５学級<br>五所川原農林<br>４学級</td><td rowspan="2">△2学級<br>→</td><td>五所川原<br>５学級<br>五所川原農林<br>４学級</td><td rowspan="2">△2学級<br>→</td><td>五所川原<br>５学級<br>五所川原農林<br>４学級</td></tr>
<tr><td>金木<br>２学級<br>板柳<br>２学級<br>鶴田<br>２学級</td><td>新設校<br>４学級</td><td>新設校<br>〇学級</td></tr>
<tr><td>木造<br>４学級<br>鰺ヶ沢<br>２学級<br>五所川原工業<br>４学級</td><td>△4学級<br>→</td><td>木造<br>〇学級<br>鰺ヶ沢<br>〇学級<br>五所川原工業<br>〇学級</td><td></td><td>木造<br>〇学級<br>鰺ヶ沢<br>〇学級<br>五所川原工業<br>〇学級</td></tr>
<tr><td>小計</td><td>２５学級</td><td>△6学級<br>→</td><td>１９学級</td><td>△2学級<br>→</td><td>１７学級</td></tr>
<tr><td>地域校</td><td>深浦校舎<br>１学級<br>中里<br>１学級</td><td></td><td>深浦校舎<br>１学級<br>中里<br>１学級</td><td></td><td>深浦校舎<br>１学級<br>中里<br>１学級</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>２７学級</td><td>△6学級<br>→</td><td>２１学級</td><td>△2学級<br>→</td><td>１９学級</td></tr>
</table>

### ①　シミュレーションの基となった意見

○　金木高校、板柳高校、鶴田高校を統合し、新しい学校を作り、通学バスの補助金等も含め検討してほしい。また、統合校は、西北地域の中心に位置する鶴田町に配置してほしい。

### ②　期待される効果等

○　基本的には、すべての子どもが希望する高校に入学してほしい。地域に高校がなくなるのは忍びないが、通学手段を確保した上である程度統合することはやむを得ない。

○　学校の地域性は重要であるが、子どもたちの将来を考えると、高校にはある程度の規模が必要だと思う。

○　金木高校、板柳高校、鶴田高校の３校の統合により、新設校が４学級規模となり、高校教育としての質の確保・向上が図られると思う。

### ③　更に検討を要する課題等

○　３校の統合により、通学等の負担が増える保護者も出てくる。新設校の設置場所や通学バスの運行等、通学（時間や経費）に配慮が必要である。

○　地域校の存続が前提でなければ、中泊地域の子どもはかなり遠くまで通うことになり、高校に通学できない子どもが生じてしまう。

○　板柳高校と鶴田高校の統合は妥当である。しかし、地域校である中里高校との関連を考えると、金木高校を含めるのは反対である。

○　鰺ヶ沢高校が１学級規模になる可能性があり、高校教育の質の確保や向上等が図られるのか心配である。

○　３校を統合して４学級規模の新設校を設けることにより、現在４学級規模である木造高校と五所川原工業高校を学級減とするのは、今回の高校教育改革の目的と逆行しているのではないか。

○　この配置案では、将来的に新設校の学級数の減少が懸念される。

### ④　その他

○　北五地域（金木高校、板柳高校、鶴田高校）で統合して新設校を配置するのであれば、西つがる地域（木造高校、鰺ヶ沢高校）でも新設校を配置することが考えられるのではないか。

エ　第１期実施計画では金木高校、鰺ヶ沢高校、板柳高校、鶴田高校を１学級規模で配置し、第２期実施計画で統合する場合

| | 第３次実施計画 | 青森県立高等学校教育改革推進計画 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 第１期実施計画 | | 第２期実施計画 | |
| | Ｈ２９ | | Ｈ３４ | | Ｈ３９ |
| 重点校 | 五所川原<br>５学級 | | 五所川原<br>５学級 | | 五所川原<br>５学級 |
| 拠点校 | 五所川原農林<br>４学級 | | 五所川原農林<br>４学級 | | 五所川原農林<br>４学級 |
| 連携校 | 五所川原工業<br>４学級 | △1学級<br>→ | 五所川原工業<br>３学級 | △1学級<br>→ | 五所川原工業<br>２学級 |
| | 木造<br>４学級 | △1学級<br>→ | 木造<br>３学級 | △1学級<br>→ | 木造<br>２学級 |
| | 金木<br>２学級 | △1学級<br>→ | **金木**<br>**１学級** | | **新設校**<br>**４学級** |
| | 鰺ヶ沢<br>２学級 | △1学級<br>→ | **鰺ヶ沢**<br>**１学級** | | |
| | 板柳<br>２学級 | △1学級<br>→ | **板柳**<br>**１学級** | | |
| | 鶴田<br>２学級 | △1学級<br>→ | **鶴田**<br>**１学級** | | |
| 小計 | ２５学級 | △6学級<br>→ | １９学級 | △2学級<br>→ | １７学級 |
| 地域校 | 深浦校舎<br>１学級 | | 深浦校舎<br>１学級 | | 深浦校舎<br>１学級 |
| | 中里<br>１学級 | | 中里<br>１学級 | | 中里<br>１学級 |
| 合計 | ２７学級 | △6学級<br>→ | ２１学級 | △2学級<br>→ | １９学級 |

### ①　シミュレーションの基となった意見

○　現在２学級規模の普通科の連携校４校について、第１期実施計画期間中は１学級募集で対応し、第２期実施計画期間中に統合して４学級規模の学校を新設してはどうか。

### ②　期待される効果等

○　第１期実施計画期間においては、高校の選択肢が多いことから、高校教育を受ける機会を確保することができる。

○　生徒数の減少傾向から、地域校の募集停止を協議する基準に該当するような定員割れのケースも増えるので、地域住民が納得した上で、第２期実施計画期間中に統合できる。

○　地域活性化という視点から、高校は地域になければならない存在である。第１期実施計画期間中に高校がなくなるのであれば、あまりに急すぎると感じる。可能な限り、第１期実施計画期間中は、統合しないでほしい。

○　単なる先延ばしであり、効果はない。

### ③　更に検討を要する課題等

○　１学級規模の高校において、子どもの希望を叶えるのは難しいのではないか。第１期実施計画期間中に統合した方が良い。

○　第１期実施計画期間中は全ての高校を存続できるので良いと思うが、１学級規模となる高校の高校教育の質の確保や向上等ができるかということと、第２期実施計画における新設校への通学（時間や経費）が大変な地域が出てくるのではないかということが課題である。

○　第２期実施計画の段階で新設校を設けるのではなく、１学級規模の高校は廃止等も含め検討していくのが良い。木造高校と五所川原工業高校を学級減とするのは現実的ではない。

○　早期に統合して、４学級規模で充実した教育環境を整備した方が良い。

○　連携校４校を統合して新設校を設置するとなると、校舎を新しく建てるのか、それとも既存の校舎を使うのか。校舎の場所についても考えてもらいたい。

○　連携校４校を統合して４学級規模の学校を新設し、その一方で志願倍率の高い木造高校を３学級規模に学級減すると、不合格になる生徒が多くなる上に、教育活動に支障が生じることになり矛盾を感じる。

### ④　その他

○　西北地区の中心地である鶴田町に新設校を設置し、通学支援を実施してほしい。

オ　第１期実施計画では普通科の連携校４校を統合し、更に第２期実施計画で五所川原工業高校を統合する場合

| | 第３次実施計画 | 青森県立高等学校教育改革推進計画 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 第１期実施計画 | | 第２期実施計画 | |
| | Ｈ２９ | | Ｈ３４ | | Ｈ３９ |
| 重点校 | 五所川原<br>５学級 | | 五所川原<br>５学級 | | 五所川原<br>５学級 |
| 拠点校 | 五所川原農林<br>４学級 | | 五所川原農林<br>４学級 | | 五所川原農林<br>４学級 |
| 連携校 | 木造<br>４学級 | | 木造<br>４学級 | | 木造<br>４学級 |
| | 五所川原工業<br>４学級 | △1学級<br>→ | 五所川原工業<br>３学級 | △2学級<br>→ | 新設校Ｂ<br>普通科２学級<br>工業科２学級<br>４学級 |
| | 金木<br>２学級<br>鰺ヶ沢<br>２学級<br>板柳<br>２学級<br>鶴田<br>２学級 | △5学級<br>→ | 新設校Ａ<br>普通科３学級<br>３学級 | | |
| 小計 | ２５学級 | △6学級<br>→ | １９学級 | △2学級<br>→ | １７学級 |
| 地域校 | 深浦校舎<br>１学級<br>中里<br>１学級 | | 深浦校舎<br>１学級<br>中里<br>１学級 | | 深浦校舎<br>１学級<br>中里<br>１学級 |
| 合計 | ２７学級 | △6学級<br>→ | ２１学級 | △2学級<br>→ | １９学級 |

### ①　シミュレーションの基となった意見

○　第１期実施計画では、連携校４校（金木高校、鰺ヶ沢高校、板柳高校、鶴田高校）を統合して３学級規模の新設校とする。

　第２期実施計画では、新設校と五所川原工業高校を統合して、普通科２学級、工業科２学級の４学級規模の学校とする。

### ②　期待される効果等

○　希望者の多い木造高校を４学級規模で配置できる。また、西つがる地域と北五地域のバランスが良い。

○　新設校の学級数が確保できる。

### ③　更に検討を要する課題等

○　木造高校深浦校舎と中里高校の存続が前提である必要がある。

○　中学生の志望倍率が西北地区で一番高い五所川原工業高校の統合を前提にしているように感じる。

○　第１期実施計画で五所川原工業高校を３学級規模、第２期実施計画で工業科を２学級規模とすると、工業科としての専門性を維持できなくなるのではないかと危惧される。

○　金木高校、板柳高校、鶴田高校の３校あるいは五所川原工業高校が統合する場合は、新設校をどこに設置するのかが大きな問題となる。また、学校としての特色をどのように出していくのか、よく検討しなければならない。

### ④　その他

○　第１期実施計画期間中に、新しい校舎を有する五所川原工業高校に統合すべき。

○　五所川原工業高校は中学生の進学希望が非常に多い学校だが、地区全体の学級数の関係で、やむを得ず学級減せざるを得ない。そして、統合する場合、施設・設備の関係で五所川原工業高校は移転できないため、五所川原工業高校に普通科を配置することになるのではないか。

カ　金木高校と鰺ヶ沢高校を１学級規模で配置し、連携校４校を統合し新設校を配置する場合

| | 第３次実施計画 | 青森県立高等学校教育改革推進計画 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 第１期実施計画 | | 第２期実施計画 | |
| | Ｈ２９ | | Ｈ３４ | | Ｈ３９ |
| 重点校<br>拠点校<br>連携校 | 五所川原<br>５学級<br>五所川原農林<br>４学級<br>金木<br>２学級<br>鰺ヶ沢<br>２学級<br>木造<br>４学級<br>板柳<br>２学級<br>鶴田<br>２学級<br>五所川原工業<br>４学級 | △1学級<br>→<br>△1学級<br>→<br>△4学級<br>→ | 五所川原<br>５学級<br>五所川原農林<br>４学級<br>金木<br>１学級<br>鰺ヶ沢<br>１学級<br>新設校<br>普通科〇学級<br>総合学科〇学級<br>工業科〇学級<br>８学級 | △2学級<br>→ | 五所川原<br>５学級<br>五所川原農林<br>４学級<br>金木<br>１学級<br>鰺ヶ沢<br>１学級<br>新設校<br>普通科〇学級<br>総合学科〇学級<br>工業科〇学級<br>６学級 |
| 小計 | ２５学級 | △6学級<br>→ | １９学級 | △2学級<br>→ | １７学級 |
| 地域校 | 深浦校舎<br>１学級<br>中里<br>１学級 | | 深浦校舎<br>１学級<br>中里<br>１学級 | | 深浦校舎<br>１学級<br>中里<br>１学級 |
| 合計 | ２７学級 | △6学級<br>→ | ２１学級 | △2学級<br>→ | １９学級 |

### ①　シミュレーションの基となった意見

○　金木高校、鰺ヶ沢高校は１学級規模でも配置してほしい。

### ②　期待される効果等

○　地域校が存続する前提でないのであれば、西海岸地域の鰺ヶ沢高校や、津軽半島北部の金木高校の存続等、生徒が通学できる範囲に高校を配置することを考える必要がある。

○　金木高校と鰺ヶ沢高校の配置を継続することにより、西北地区の遠方地域においても高校教育を受ける機会を確保することができる。

○　地域校について、募集人員に対する入学者数の割合の状況等により、募集停止等も含め検討することとしている。木造高校深浦校舎、中里高校に隣接する鰺ヶ沢高校、金木高校の募集停止等が先行して実施された場合、現状を考えると西海岸地域、津軽半島北部から高校がなくなってしまうことが憂慮される。そのように考えると、平成３０年度以降については、鰺ヶ沢高校と金木高校を１学級規模で存続させ、第１期実施計画期間における各学校の入学状況等も考慮して、鰺ヶ沢高校、金木高校を地域校とすることなども考えられるのではないか。

○　地域校及び連携校の状況を考慮の上、西海岸地域と津軽半島北部の生徒が通学できる配置を考えるべきであり、連携校の統合決定後、地域校が募集停止となる場合、西海岸地域や津軽半島北部に県立高校が存在しなくなるのは避けるべきである。

○　鰺ヶ沢町は、地理的に広域であり、鰺ヶ沢高校がなくなると通学が困難になる子どもが多数発生することを懸念している。

○　五所川原高校や五所川原農林高校という、核となる学校は配置すべきであるが、仮に鰺ヶ沢高校がなくなった場合、木造高校に入学できない生徒は、結局私立高校に進学する。第１期実施計画の５年間は、１学級規模で鰺ヶ沢高校を配置していただきたい。

○　深浦町の児童生徒数を考えると、木造高校深浦校舎はいずれなくなるかもしれない。最低でも西海岸地域に１学級規模の高校を配置してほしい。

### ③　更に検討を要する課題等

○　五所川原工業高校を含めた新設校とした場合、施設・設備の関係から設置場所が現在の五所川原工業高校の敷地になる可能性が大きいことから、他地域への影響が大きいと思われる。

○　生徒の通学に配慮した、地域校的な金木高校と鰺ヶ沢高校の存続案だと思うが、１学級規模では高校教育の充実が難しい。

### ④　その他

○　このシミュレーションのほか、

・木造高校、板柳高校、鶴田高校の統合による新設校

・板柳高校、鶴田高校、五所川原工業高校の統合による新設校

・木造高校、五所川原工業高校の統合による新設校

が想定される。

## （３）その他の意見

**（学校規模・配置）**

○　西北地区の小学校は３０年前と比較して約３分の１まで減少しており、高校の統廃合もやむを得ないと考える。一方、子どもたちの選択肢が減ることや、通学費等の負担が増加することにより、高校進学率の低下につながることが懸念される。

○　東青地区や中南地区の学校を減らしてでも、西北地区の学校を残して、東青地区や中南地区の子どもを西北地区の学校に進学させるという考え方をしても良いのではないか。

○　板柳高校は隣接する市町村からも通学しており、ほぼ１００％の定員充足率でもあるため、子どもたちの選択肢を狭めないよう配置に配慮してほしい。

○　木造高校と金木高校が統合となった場合、学力面の差が心配である。

○　中学生それぞれの志に応じた主体的な学校選択が促進されるよう、進学や就職等、幅広い進路選択に的確かつ柔軟に対応する総合学科の中核となる高校を設置する。

○　西北地区の場合、五所川原市を中心に、重点校、拠点校と五所川原工業高校は単独で配置すべきと考える。

　連携校の統合については、地域校の通学範囲とも関係しており、地域校は存続が不透明となっているので、現時点での連携校の統合については望ましくないと思う。

　したがって、第１期実施計画期間の平成３４年度までは、地域校と連携校の状況を把握しながら現状を維持し、第２期実施計画期間の平成３９年度までに、五所川原市を中心として、重点校、拠点校、五所川原工業高校を配置することと、連携校を西海岸地域、津軽半島北部、津軽半島南部へ配置することが望ましいと考える。

**（学科等）**

○　スポーツや福祉等に重点的に取り組む学校や看護師等の後継者育成を目的とした学校の配置を期待している。

○　普通科内における学力の差は、進学コースや就職コース等の設定により対応できるようにすれば良いのではないか。

**（連携校等）**

○　高校への進学を希望している全ての中学生に対して、高校教育を受ける機会を確保するような学校配置を考えなくてはいけない。特に、重点校、拠点校に進学できない子どもの受け皿を確保するためにも、連携校の配置は慎重に考えなければならない。

○　連携校に魅力がなければ、私立高校に進学する傾向にならないか心配である。生徒が今よりも魅力のある学校になるとイメージできれば、これまで連携校に興味を示さなかった子どもたちが連携校に進学する可能性がある。

○　最近、西北地区で私立高校に進学する生徒が増えている。この地域の魅力が無くなると、弘前市内や青森市内の学校へ生徒が進学してしまう。

○　生徒に人気のある五所川原高校や木造高校への進学が学力的に難しい生徒を受け入れる学校として、連携校の配置が必要である。

（生徒の通学）

○　生徒数が少ないので募集停止ということは仕方がないことだと思うが、通学できる学校がなくなれば、子どもたちはどうすれば良いのかと心配になる。

○　地域校が閉校になった場合は、交通手段等の通学環境に配慮してほしい。

○　小泊地域から五所川原市内の高校に通学する場合、月２万円弱の定期を購入して、スクールバスで約１時間半かけて通学することとなる。金木高校が存続することで、仮に中里高校が基準に該当し募集停止になった場合であっても、新たにバスを運行することで、小泊地域からは１時間以内で金木高校に通うことができる。

（その他）

○　中里高校は、地元の中学生が入学すれば１学級を満たすのに、実際は２０人を切っている。その理由を考えていく必要がある。

○　地元の人間が、自分たちの子や孫が通える学校を残そうと動き、協力していければ良いと思う。

○　高校生活を通して生徒同士が力を合わせて伸びていくという部分があることも考慮しなければいけない。あまりにも人数が少なかったり、メンバーが固定化するといろいろ危惧される部分もある。

○　本県は財政的に厳しいことから、学級数が少なくなっても県で教員を配置できるかが心配である。

○　平成２９年３月中学校卒業者の第１次志望状況調査と第２次志望状況調査を比較したときに、木造高校では３０人、五所川原農林高校では２０人、五所川原工業高校では１０人の志望者が減っている。しかし、その他の、連携校４校は合計しても志望者が１人しか増えていない。地域校は２名しか増えていない。このことから、人気のある学校の志望者で減った６０人は私立高校に流れている可能性が高いのではないか。今年度、推薦入試で１５０名程度が第一希望を私立高校にしているようである。木造高校が無理だと、遠くの連携校に行かずに私立高校に進学する傾向が強い。

## ３　定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

○　中途退学した生徒の多くが北斗高校を志願している。３部制の高校が各地区にあれば良い。

○　定時制課程と通信制課程の両機能を有する学校を県内６地区に均等に配置する必要があると考える。

○　現在、働きながら学んでいる生徒はほとんどいないため、全日制課程の高校で様々な事情を抱える生徒に十分対応できるようにし、役割を終えた学校は閉校しても良いのではないか。

○　定時制課程、通信制課程ともに現状維持を要望する。

## 【参考１】委員名簿（西北地区）

（敬称略）

| 区　分 | 所　属　等 | 委　員　名 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 市町村教育委員会 | 五所川原市教育委員会　教育長 | 長　尾　　孝　紀 | |
| | つがる市教育委員会　教育長 | 葛　西　　嵳　輔 | |
| | 鰺ヶ沢町教育委員会　教育長 | 神　　豊 | |
| | 深浦町教育委員会　教育長 | 坂　本　　寛 | |
| | 板柳町教育委員会　教育長 | 木　村　　研　二 | |
| | 鶴田町教育委員会　教育長 | 中　野　　雄　臣 | |
| | 中泊町教育委員会　教育長 | 加　藤　　久　宜 | |
| ＰＴＡ | つがる市連合ＰＴＡ　会長<br>（つがる市立車力中学校ＰＴＡ　会長） | 秋田谷　　建　幸 | |
| | 北五連合ＰＴＡ　会長<br>（中泊町立薄市小学校ＰＴＡ　会長） | 今　本　　宏　樹 | |
| | 西津軽郡連合ＰＴＡ　監事<br>（深浦町立深浦小学校ＰＴＡ　会長） | 飯　島　　正　和 | |
| | 青森県高等学校ＰＴＡ連合会<br>西北地区協議会　会長<br>（県立五所川原工業高等学校ＰＴＡ　会長） | 野　上　　淳　一 | |
| 産業界 | 五所川原商工会議所青年部　監事 | 安　田　　博 | |
| 小中学校長会 | 西つがる小学校長会　会長<br>（つがる市立富菏小学校　校長） | 長　内　　一 | |
| | 北五小学校長会　会長<br>（五所川原市立金木小学校　校長） | 野　呂　　良　悦 | |
| | 西北中学校長会<br>（つがる市立車力中学校　校長） | 木　村　　文　紀 | |
| | 元県立五所川原高等学校　校長 | 佐　井　　憲　男 | 進行役 |

## 【参考２】オブザーバー名簿（西北地区）

（敬称略）

| 所　属　等 | オブザーバー名 | 備　考 |
|---|---|---|
| 県立五所川原高等学校　校長 | 野　村　　卓　司 | |
| 県立金木高等学校　校長 | 藤　澤　　重　信 | |
| 県立木造高等学校　校長 | 吉　田　　健 | |
| 県立鰺ヶ沢高等学校　校長 | 百　川　　弘　通 | |
| 県立板柳高等学校　校長 | 米　持　　聡 | |
| 県立鶴田高等学校　校長 | 前　田　　済 | |
| 県立中里高等学校　校長 | 笹　森　　昭　好 | |
| 県立五所川原農林高等学校　校長 | 山　口　　章 | |
| 県立五所川原工業高等学校　校長 | 三　上　　浩 | |
| 県立森田養護学校　校長 | 成　田　　安　男 | |

## 【参考３】地区意見交換会の開催状況（西北地区）

| 回 | 年月日 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 平成28年 9月12日 | ○学校規模・配置に関する意見発表 |
| 2 | 平成28年11月22日 | ○第１回地区意見交換会での意見等を踏まえた学校配置シミュレーションに関する意見交換 |
| 3 | 平成29年 1月25日 | ○地区意見交換会委員の意見に基づく学校配置シミュレーションにおいて想定される効果・課題等に関する意見交換 |